

## 科学技術ガバナンス研究会(東大I2TA)

2010・6・7

# 日本学術会議

人文・社会科学、生命科学、理学・工学分野の  
84万人の科学者を内外に代表する機関

## その現状と任務

東京大学名誉教授  
日本学術会議副会長  
唐木英明

KARAKI 2010

1



日本学士院  
The Japan Academy



日本学士院は、**学術上功績顕著な科学者を顕彰するための機関**として文部科学省に設置されており、学術の発展に寄与するための必要な事業を行うことを目的とする。

本院は、**明治12(1879)年**に福沢諭吉を初代会長として創設された「東京学士会院」を前身とする120年余の歴史を持ち、学術的な業績をもとに選定された**定員150名**の会員により組織される。

主な事業として、**恩賜賞、日本学士院賞、エジンバラ公賞並びに学術奨励賞の授賞**をはじめ、紀要の編集及び発行、公開講演会の開催、外国アカデミーとの交流などがあり、国の内外に渡り学術の発展に貢献する様々な事業を進めている。

国際事業では、世界58カ国の学士院の集まりである「**国際学士院連合**」に大正8年(1919年)に加盟し、それ以来積極的に国際協力事業を進めているほか、海外アカデミーとの交流協定の締結や海外の著名な研究者を客員として本院に迎える制度などにより学術の国際交流の進展に努めている。

KARAKI 2010

2



## 総合科学技術会議

COUNCIL FOR SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

内閣府に設けられている「重要政策に関する会議」

- 経済財政諮問会議
- 総合科学技術会議
- 中央防災会議
- 男女共同参画会議

総合科学技術会議は、平成13(2001)年1月の中央省庁再編に伴い、「重要政策に関する会議」の1つとして内閣府に設置された。内閣総理大臣のリーダーシップの下、科学技術政策の推進のための司令塔として、わが国全体の科学技術を俯瞰し、総合的かつ基本的な政策の企画立案及び総合調整を行っている。

- ・国家的・社会的課題に適時適切に対応するため科学技術に関する総合戦略を立案。
- ・人文・社会科学も含み、倫理問題等の社会や人間との関係を重視。
- ・内閣総理大臣等の諮問に応じ答申するのみならず、自らも意見具申。
- ・議長は内閣総理大臣、閣僚議員と有識者議員が7名ずつの他に、関係機関の長として日本学術会議会長が参加。

日本学術会議との関係は「車の両輪」 →



KARAKI 2010

3



## 日本学術会議

SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

わが国の科学者の内外に対する代表機関

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24(1949)年1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立された。職務は、以下の2つ。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約84万人の科学者を内外に代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われている。

日本学術会議の役割は、主に I 政府に対する政策提言、II 国際的な活動、III 科学者間ネットワークの構築、IV 科学の役割についての世論啓発。

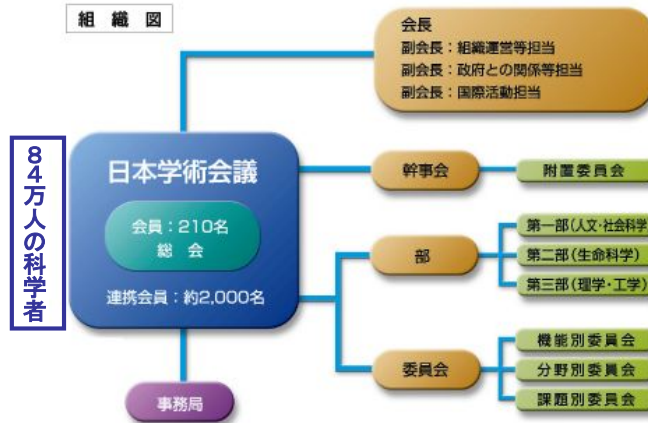


KARAKI 2010

4

## 組織

日本学術会議には、総会、役員(会長と3人の副会長)、幹事会、3つの部、4つの機能別委員会(常置)、30の学術分野別の委員会(常置)、課題別委員会(臨時)、地区会議及び事務局が置かれています(なお、必要に応じ、幹事会には幹事会附置委員会が、各委員会には分科会等が置かれます)。



KARAKI 2010

5

## 最近の意見発出

<http://www.scj.go.jp/>

- 2010/5/27 G8サミットに向けた各国学術会議の共同声明  
・母子の健康の推進 ・開発のためのイノベーション
- 2010/5/26 IAP共同議長声明「教育と研究に世界経済危機が与えるインパクトに関する提言」に関連しての会長談話
- 2010/4/9 提言「受動喫煙防止の推進について」
- 2010/4/5 提言「日本の展望—学術からの提言2010」等
- 2010/3/17 提言「学術の大型施設計画・大規模研究計画・企画・推進策の在り方とマスタープラン策定について」
- 2010/3/10 報告「黄砂・越境大気汚染物質の地球規模 循環の解明とその影響対策」
- 2010/3/10 提言「生物多様性の保全と持続可能な利用・学術からの提言」
- 2010/2/19 報告「リスク社会」下の自由と規制—撤退は国家の宿命か—
- 2010/1/15 日本学術会議幹事会声明 日本の未来世代のために我々が今なすべきこと

KARAKI 2010

6



### G8サミットに向けた各国学術会議の共同声明

日本学術会議は、平成22年6月25日から26日にカナダでG8サミットに向け、G8サミット各国のアカデミーと共同で、「開発のためのイノベーション」について、サミット参加国共同声明として取りまとめ、各国で公表されました。我が国日、本共同声明を金澤会長から鳩山総理に手交しました

本文はこちら [\(本文\) Health of Women and Children \(仮訳\) 母子の健康の推進](#)  
[\(本文\) Innovation for Development \(仮訳\) 開発のためのイノベーション](#)



IAP共同議長声明「教育と研究に世界経済危機が及ぼす提言」に関連しての会長談話

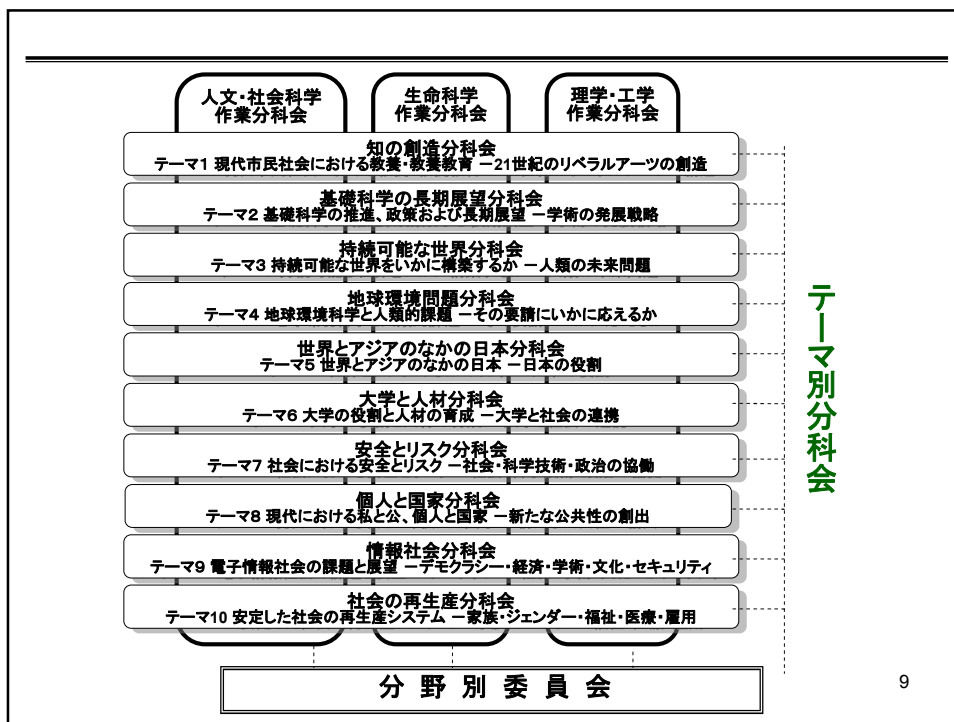
## 「日本の展望－学術からの提言」

### 基本的提案

- (1) 日本学術会議において、6年毎をメドに10－20年を展望した学術の長期展望について、各分野を基礎に、また、課題に応じて総合的に検討し、取りまとめる活動を行う。
- (2) 取りまとめの活動に基づき、その重要な内容および提言を総括して「日本の展望－学術からの提言」を作成し、広く公表する。
- (3) それぞれの分野および課題についての検討結果も併せて公開する。

### 目的

- (1) 国の内外に対し、広く日本の学術研究の方向・展望を提示
- (2) 重要な検討結果を、我が国の科学・学術政策に反映
- (3) 学術研究の方向、その革新、新分野の開拓等を長期的視野で継続的に検討



## 『日本の展望—学術からの提言2010』の概要

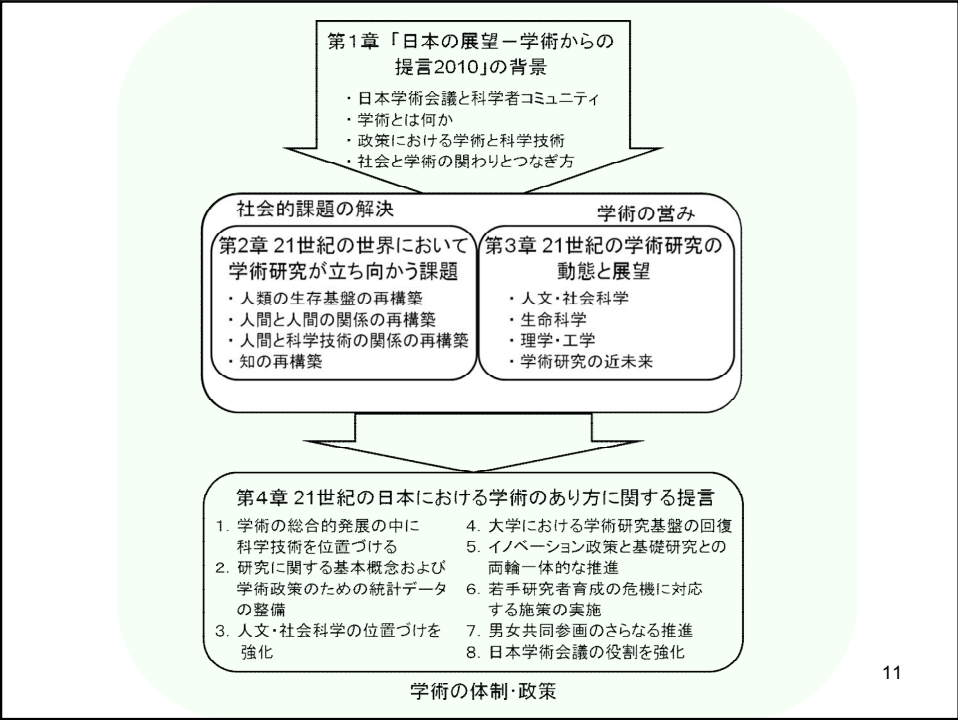
21世紀の人類社会および日本社会にとって喫緊の課題である持続可能な社会の構築を展望して、人文・社会科学、生命科学および理学・工学の全ての諸科学を包摂する「学術」がその総合力をどのように発揮すべきであり、することができるかについての学術からの提言である。

第1章は、提言の前提として、提言主体が自らの役割をどのように把握し、学術・科学・技術の相互関係、また学術と社会の関係をどのように認識しているかを提示する。

第2章は、21世紀の世界において学術が立ち向かうべき課題を具体的に4つの領域の「再構築」問題として位置づけ、学術がどのように貢献すべきかを展開する。

第3章は、世界の諸課題に立ち向かう現在の学術それ自体の発展動向を考察し、学術が進むべき方向を研究分野に即しながら明らかにする。

第4章は、日本の学術が21世紀の人類社会への十全の貢献を達成するために、学術に関わる政策と体制がどのようなものであるべきかについて具体的な提言を行う。



**提 言**

**学術の大型施設計画・大規模研究計画**  
**—企画・推進策の在り方と**  
**マスタープラン策定について—**



平成22年（2010年） 3月17日

12

## 1 作成の背景

・「**大型施設計画**」素粒子・原子核物理学、天文学、宇宙空間科学、核融合科学、地球科学など

・「**大規模研究計画**」生命科学、地球環境科学など広範な学術の諸分野において、多くの研究者を長期にわたって組織する計画によって、長期定点観測・研究、大規模データ収集、広範なデータベースや大規模資料ライブラリーなどの大分野を支える研究

・これらの**大型計画**(大型施設計画および大規模研究計画、以下同じ)には、科学研究費補助金等の枠では賅いきれない多額の予算が必要

・大型計画は、新たな科学と技術の限界への挑戦であり、フロンティアを切り開き新たな知を創造する先端研究である。大型計画により生み出される成果は、我が国の国際的地位を高め、広い関連分野の研究・教育を育て加速させるとともに、萌芽的研究を育成する研究基盤を広く強化することができる。資源・エネルギーに乏しい我が国にあって、広範な学術的基盤に支えられた最先端科学の発展が果たす役割は非常に大きく、持続可能な人類社会の構築に必要な技術の革新や産業創出にもつながる。

KARAKI 2010

13

## 2 現状および問題点

1. **大型施設計画**には、基礎科学分野を中心としたボトムアップ型の計画とともに、国策的視点からトップダウン的に実施されてきた、予算規模がより大きく技術開発色・応用色の強い計画がある。ボトムアップ型計画においても、最終的な予算化段階や成果の公開で**社会への説明が十分なされていない**面があった。トップダウン的・国策的な大型施設計画には計画策定や決定のプロセスに科学者コミュニティが十分に寄与することができず、透明性や科学的視点に基づく評価、適切な利用体制などが不十分なケースも少なくなかった。

2. 大型施設計画を長期的かつ組織的に**推進する仕組みの明確化が不十分**なことである。科学者コミュニティの意見集約を踏まえた上で、科学的に有用性が高いと評価される各大型施設計画の所要経費、計画期間、期待される成果などをマスタープランとして明らかにし、それを政策判断に基づいて適切に実現して行くことは、大型施設計画に対する国民の理解を得る上でも必須である。

3. **従来の「大型施設計画」とは異なる「大規模研究計画」の必要性**が高まっているが、それらに対する対応が不十分である。

日本学術会議は科学者コミュニティの専門的意見を集約して、大型施設計画および大規模研究計画の検討を行い、わが国として初めての**全分野にわたる大型計画のマスタープラン**を策定した。

KARAKI 2010

14

### 3 大型計画の企画・推進の在り方に関わる提言

提言1 学術の大型計画のマスタープラン策定と科学的評価に基づく推進策の構築

提言2 従来の「大型施設計画」に加えての「大規模研究計画」の確立と推進

提言3 大型計画と基盤的学術研究、およびボトムアップ的な基礎科学の大型計画とトップダウン的な国策的大型計画の、バランスの良い資源投資と協力的かつ総合的推進による我が国の学術の強化

提言4 大型計画の政策策定プロセスにおいて、科学者コミュニティからの主体的な寄与が十分に行われる体制の確立

提言5 科学者コミュニティによる大型計画の長期的検討体制の構築

提言6 学術の大型計画の推進を通じた、多様な関心と能力を持つ人材の育成と教育体制の確立

## 日本学術会議の在り方等について (私案)

日本学術会議会長 金澤一郎



## 日本学術会議が推進する 三種の科学と、対応する機能

### 1) science for science (科学のための科学)

人類の「知」を蓄積するための科学研究の推進を通して  
科学者間の強固なネットワークを構築する

### 2) science for society (社会のための科学)

国民・市民の生活・安全など科学・技術の成果を社会に  
還元するとともに、国民の科学・技術リテラシーの向上に  
協力し、地球規模の課題などに関して国際的な活動を展  
開する

### 3) science for policy (政策のための科学)

長期的な視野に立ち、科学的・俯瞰的見地から、政府に  
科学・技術政策を提言する、あるいは政府が作成する政  
策を評価・支援する(例:リスク管理策設定の支援など)

KARAKI 2010

17

## 日本学術会議のあり方の改善について

### アカデミーとしての機能強化

- (1) 審議・提言機能の強化
- (2) 学協会との連携強化
- (3) 若手研究者の意見集約機能の強化
- (4) 市民の科学・技術リテラシー向上のための機能強化

### アカデミーと政府との連携強化

- (1) 内閣特別顧問の常設化
- (2) 政務三役などへの迅速かつ有効な情報提供など

KARAKI 2010

18